

木津川市立図書館協議会 会議経過要旨

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--|-----------|---------------------------|-----------|---------|------|---------|---------|---------|------|----------|---------|----------|-----|--|--|--|
| 会議名 | 平成30年度 第2回 木津川市立図書館協議会 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日時 | 平成30年11月14日（水） 視察研修：午前8時45分～10時 協議会：午前10時～12時 | 場所 | 木津川市役所 第2北別館 2階 会議室 | | | | | | | | | | | | | | |
| 出席者 | <table border="0"> <tr> <td>委員</td> <td>■中下和男会長</td> <td>■池田加津子副会長</td> <td>■河瀬敦子委員</td> </tr> <tr> <td>■：出席</td> <td>□下浦悦子委員</td> <td>■西岡清美委員</td> <td>■福森真知委員</td> </tr> <tr> <td>□：欠席</td> <td>■松本也寿子委員</td> <td>■山本欽一委員</td> <td>■渡邊美秀子委員</td> </tr> </table> <table border="0"> <tr> <td>事務局</td> <td>大内図書館長、山岡中央図書館係長、 森井加茂図書館主査、宮浦中央図書館主査</td> </tr> </table> | 委員 | ■中下和男会長 | ■池田加津子副会長 | ■河瀬敦子委員 | ■：出席 | □下浦悦子委員 | ■西岡清美委員 | ■福森真知委員 | □：欠席 | ■松本也寿子委員 | ■山本欽一委員 | ■渡邊美秀子委員 | 事務局 | 大内図書館長、山岡中央図書館係長、 森井加茂図書館主査、宮浦中央図書館主査 | | |
| 委員 | ■中下和男会長 | ■池田加津子副会長 | ■河瀬敦子委員 | | | | | | | | | | | | | | |
| ■：出席 | □下浦悦子委員 | ■西岡清美委員 | ■福森真知委員 | | | | | | | | | | | | | | |
| □：欠席 | ■松本也寿子委員 | ■山本欽一委員 | ■渡邊美秀子委員 | | | | | | | | | | | | | | |
| 事務局 | 大内図書館長、山岡中央図書館係長、 森井加茂図書館主査、宮浦中央図書館主査 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 傍聴者 | 0名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 議題 | <p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度事業報告 ・本年度課題についての経過報告 ・平成31年度事業・予算について <p>4 閉会</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 会議結果要旨 | <p>◆視察研修</p> <p>・視察先 奈良市立北部図書館 　　本年度課題のひとつとしていた奈良市立北部図書館の利用について、利用開始後の状況を見るため、現地視察を行った。</p> <p>◆協議会</p> <p>1 開会</p> <p>・開会宣言 　　委員9名中、8名の出席により、会議が成立していることを確認した。</p> <p>2 会長あいさつ 　　中下会長より開会のあいさつがあった。</p> <p>3 議題 　　中下会長が議長となり、議事を進行した。</p> <p>・平成29年度事業報告 　　事務局より資料に基づき説明した。 　　説明内容について、大筋の了解があった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---|--|
| | <p>・本年度課題についての経過報告 事務局より資料に基づき説明した。 説明内容について、大筋の了解があつた。</p> <p>・平成31年度事業・予算について 事務局より資料に基づき説明した。 説明内容について、大筋の了解があつた。</p> <p>4 閉会 池田副会長より閉会のあいさつがあつた。</p> |
| <p>会議経過要旨</p> <p>◎：会長 ○：委員 ⇒：館長 →：事務局</p> | <p>◆視察研修</p> <p>・視察先 奈良市立北部図書館</p> <p>・参加者 中下会長・池田副会長・河瀬委員・下浦委員・西岡委員・福森委員・松本委員・山本委員・渡邊委員・大内館長・森井主査・宮浦主査 計12名</p> <p>本年度課題としていた奈良市立北部図書館の利用については、奈良市と木津川市の地域連携包括協定に基づき本年9月30日から利用できるようになったことから、現地視察を行つた。</p> <p>奈良市立北部図書館の北出館長より、館内の案内や利用状況の説明を受けた。</p> <p>◆協議会</p> <p>1 開会～2 会長あいさつ 会議結果要旨のとおり。</p> <p>3 議題</p> <p>・平成29年度事業報告</p> <p>【資料】平成29年度 年報</p> <p>【主な質疑・応答】</p> <p>○：加茂の貸出が6パーセント増加したということで、30年度はそれを踏まえてどのようなことを考え、実施しているか。</p> <p>→：貸出人数も冊数も同じパーセンテージで上がっており、まだ分析が詳細にできていないが、木津町域の州見台・梅美台地域は、加茂図書館にも近く、そのあたりの利用が少し増えたのではないかと見込んでいる。</p> <p>これを踏まえてではないが、図書の購入費用は今年減額されてるので、三館で購入する本を突合し、同じ本の購入を控えるようにしている。特色という程でもないが、その館の蔵書傾向によって買う本を分担し、少ない予算で数多くのジャンルの本を購入し、手に取ってもらえる本を増やす努力をしている。</p> <p>○：館毎の蔵書傾向とはどのようなものか。</p> <p>→：中央は全般を網羅するようにしている。加茂は時代小説が多い。山城</p> |

は、ティーンズ文庫という中高生が読む文庫や中高生向きの小説が豊富となっている。

◎：過日の新聞にも載っていたが、貸出率の低下が問題になっている図書館が多い中、加茂図書館の6%増は大きい。本年もあと4ヶ月、分析をし、来年度へ向けて貸出率の向上に繋げてほしい。やはり貸出率は、非常に重要な事だと思う。

他、特ないようなら、本件はこのようにさせていただく。

・本年度課題についての経過報告

【配布資料】資料1 本年度課題の経過報告について

【主な質疑・応答】

○：北部図書館の利用申込は、今まで木津川市の図書館を利用していない新規の方が多いと聞いた。現在は移動図書館がまだ利用できるが、廃止後は北部図書館の利用が増えるのではないか。

もう1つ、移動図書館を利用していなかった梅美・州見台地域の方は車を運転できれば加茂図書館も利用できるが、交通弱者や高齢者の声をどう拾い上げていくかが課題になってくる。移動図書館の廃止後に、他の図書館を利用しづらい方の意見をどう汲み取るかに気を配ってほしい。移動図書館の中で意見を聞くとかアンケートがとれたらと思う。

また、奈良市の北部図書館との連携の中で、当初は木津川市から職員が応援に行ったという話があったが、今後、職員の出向などはどうなのか。奈良市との行政間の取組になるので難しい課題だと思うが、木津川市の住民の方が利用されるのを直接肌で感じてもらうのも大事と思う。向こうにお任せではなく、連携していくにはどうしたらいいかという事を、頭の片隅に置いて取組んでほしい。

◎：いくつか具体的な話が出たが、今すぐにという事ではないが、今後、活かしていくけば、それが大きな貸出率増や住民サービスの向上に繋がれば。

⇒：北部図書館の件については、今後は定期的な交流を図り、互いに同じ目的で仕事をしているので、図書館の運営について色々いい所を取り入れて互いに進めていければと思っている。

今の所、最初のステップとして応援に行く事で、まず北部図書館の職員と顔なじみになるのが必要ではと、職員が交代で行っていた。そして、スタートという事で、積極的にこちらの方から応援に行っていた。

今後については、出向は大きな課題だとは思うが、連携、いい所を取り入れるという所でいけば、比較的に行き来もしやすいので、例えば半日や1日という形で、今後、定期的にまた積極的に行って色々と学びたいと思っている。まだ具体的な計画は考えていないが、そういう構想は持っている。今年度、あと残り数ヶ月、様子を見ていきたい。

移動図書館の件については、まず北部図書館で今後どう利用が伸びていくか推移を見極める必要がある。移動図書館の廃止はすごく大きな事なので、廃止の影響また市民の声が、実際の廃止の日が近づくにつれ、大きくなってくると思っている。当面の推移を見極め、今後の対応を考えていきたいというのが市全体の方針で、どこまでできるかを、みなさん方の意見を伺いながら、時期ごとに進めていきたいと思っている。

◎：今、地に着いた状況把握の上に、地道にやっていくという話があった。

私は、アンケートや広報というものは、1人1人の心に届いて、利用して、初めてその広報が活けるという事になり、広報だけというような事が多々あると思っていて、目に留まって、その触れた方が動く、そして実際に行動するという事が、非常に難しい事だが、大事だと思っている。

色々な情報を出しても、その情報が心に留まらなかつたら捨てられてしまうので、三館が活用されるように、特に三館の休日、これが今後非常に大事になっていくと思う。今、聞くと大変地道に情報分析をしていくと思うので、更に上乗せしたもので、今後できたらと思う。

他、特にないようなら、本件はこのようにさせていただく。

・平成31年度事業・予算について

【配布資料】資料2 本年度課題の経過報告について

【主な質疑・応答】

○：市から予算としていただいたものと、好意によって寄付いただくお金は違う。寄付は市民のみなさんのために本を買ってくださいという好意でいただくお金。寄付をいただく事によって市からの予算が減るのはおかしい。寄付でいただいた好意を、市はどうのうにとっているのか。

⇒：今年についても寄付をいただき、市からの予算に上乗せして図書を購入している。9月の議会で、寄付をいただいたので、その分を足して図書購入費にしますという予算の成立を得た。

説明したのは、今後の話。来年も、今の推移から見ると同程度の予算を確保する準備をしている。ただ30年度も29年度より若干予算が減っている中で、市全体の財政から本購入だけ同じように予算をつけてもらえるかというと、なかなか難しい状況にある。その中で説明したように、蔵書のあり方を明確にして、計画を立てて、これだけ増やしていく。そのためこれだけ買っていますというのを設けて、1年目、2年、たまたまその時にご好意を得て上乗せできた、という事は計画より早く蔵書が増えているという計算になる。なので、その翌年か翌々年の予算が、減らされても、そこはやむを得ないと。逆に、その更に先の話で、最初これだけあった予算が寄付をいただいてこれだけ減った。翌年については元々の計画があるので、ちゃんと元に戻してください、と

いう予算取りを折衝していく。もちろん、だからデコボコするが、延べとして最終は同様。

○：分からない。

○：例えば、次年度の予算枠を一律に5%減など、色々な方針がある。そうした中で、例えば今年100万円の購入費があった場合に、年度年度で、全体で、他の所も含めて何%減でというのが予算を立てる場合に出てくる。そこを元に戻すのに、先程、館長が言ったように、資料を持って納得させていかないといけないということ。

○：寄付は別だと考えられないか。次年度は寄付でいただいた冊数を上乗せした計画にしていくのはダメか。

⇒：予算があるから買うという状況では無い。

○：館長の言う事はすごく分かるが、たぶん寄付された方は、その目標以上のものを、求めているのでは。

寄付した方が、図書館運営に、本を買う以外の事も含めて使ってくださいとおっしゃっているのか、あるいは蔵書をこれでとおっしゃっているのか、その辺りもある。

○：これは子どもたちのために本を買ってあげてくださいと純粋に思っている方もおれば、行政も厳しい中、他にも使って結構ですと、そういうふうに思われる方もおられるかもしれない。我々は直接聞いてないので。

○：この方は本を買ってくださいと言われたと、私は受け止めたが。

○：そのお金で本は買っている訳でしょ、現実は。

○：買ってない事になるのでは。

○：結局、図書館の利用がうまくいってないから予算が減る。図書館を利用する人が増えたら、減らされない。とにかく図書館に足を運んでもらえるようにどうすればいいかという事業を考えて、お金をかけずうまくいくようにして、減らされなくすればいい。イベントをするにしても、今日はイベントがあると分かるようにするとか、貸出の時に、今度こんなイベントがあるからと一言かけるなどして、来てくれるイベントの参加人数を増やして、図書館に来てくれる人を増やす事が、予算が減らされるからということより大事だと思う。

⇒：最終的には1つだけの話じゃなくて、色々な要素を全体的に総合的に見て、からんでるので、そういう所をお伝えしたかった。

○：先程の働き方改革の事でも、これは人数減になると思える。人件費の事から言えば。そういう時にどう対応していくのか。今日、視察で北部会館には自動貸出機があった。ただ、これをするために相当の投資がある。ICチップを埋め込まないといけないので、人数減に対応する何かは、考えておかなければいけない。

例えば、ICチップはある程度はお金がかかるが、盗難防止にも繋がる。お金がからんでくるが、変えていかないと、職員へのしわよせや来

| | |
|---------|--|
| | <p>館者をお待たせする事にもなる。何人の減になるか分からぬが、そうなっても対応できるような機械化、IT化がもし図れたらと思う。</p> <p>⇒：今の実情としては、体制、人数は厳しい状態で運営している。具体的には、今、山城図書館に正職員はない。中央図書館から交代で山城図書館に行って、やりくりしている。三館とも人数が贅沢にあるという訳ではなく、厳しい状態の中で、雇い方が変わり賃金ベースが上がる要素があるという中で、素直に予算をつけてもらえるような雰囲気には無い。</p> <p>どこかの部分の見直し、極端な話、人の削減という所も視野には入れておかぬといけない。もちろん色んな分析、見直しの検討もしている。例えば絞った形の事業にし、労力を減らし効率化とか、色んな切り口がある。施設の管理についても、今、3つの館でそれぞれ行っているものをまとめれば事務の効率化や、単価の軽減による費用削減効果もある。本当に色んな分野の見直し、効率化、検討を進めて、相対的な予算が増えるのを抑制する形で考えている。機械的なものを導入して効率化というのもあるが、初期投資をどう見るかという所もある。確かに瞬時に貸出ができるという事は職員の労力も省けるので、相当なコストカットにはなっていくんじやないかと思うが、なかなかそれだけではない。</p> <p>◎：非常に難しい行政の中での職員の活用という事になるので、なかなか一概にこの中に言えないが、情報として32年度から非正規雇用への待遇が変わっていく事が始まる。それについての様々な職員の仕事の中身に関わっていく。それでサービスが落ちるという事はあってはならない事だが、なかなか難しい問題もあるうかと思うが、ご尽力いただけたらと思う。</p> <p>他、特にないようなら、本件はこのようにさせていただく。</p> |
| 4 閉会 | 会議結果要旨のとおり。 以上 |
| その他特記事項 | なし |